



広島女学院同窓会佐伯地区だより

二〇一一年度聖句

平和を実現する人々は、幸いである。

マタイによる福音書五章九節

二〇一一年度を迎えて

地区長 内山豊子

まず三月一日に東日本を襲った大地震と津波の犠牲になられた方々に心からの哀悼の祈りを捧げます。また悲しみと苦しみのなかで不自由な避難生活を強いられている多くの被災者の方々が一刻も早く平穏な生活を取り戻されますようお祈りいたします。「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」の聖句の精神のもとに、私達広島女学院同窓会本部でも、いち早く臨時幹事会を開き、二百万円の義援金を、また各地区でもそれぞれが用意し、有意義に役立てていただくよう、学校に委託しました。佐伯地区「あやめ会」でも五万円させていただきました。

広島女学院は今年創立一二五周年を迎えました。私達の母校が、長年培われてきた女学院精神を守り続け、これからも世の光として輝いていくことを願ってやみません。私達同窓生も、母校発展のために、精一杯の支援を続けていきたいものです。また、昨今広島の平和運動に力が無くなってきたと指摘されているだけに、今年の年間聖句はしっかりと心に刻みつけていきたいと思えます。

二〇一〇年度活動報告

書記 小田穂恵

*地区だより発送作業・・・五月十二日 (十二名参加)

*ボランティア作業・・・廿日市市原にある特別養護老人ホーム「清鈴園」のお年寄りのためのお下拭を縫う

作業。十年以上続けておりますが、最近参加者がやや減少ぎみで一回六〇八名。毎回約六十組前後作成。

七月は大雨のため、中止になる。

*クリスマス献金(例年通り) 止揚学園、清鈴園、ケアセンターへ各二万円。キリスト教社会館へ一万円

*東日本大地震義援金 五万円

*地区会・・・三月九日 楽々園公民館にて(一五名出席)

午前中は作業をし、午後皆で話し合いをする。

二〇一一年度役員(昨年と同じ)

地区長 内山豊子 副地区長 有馬礼子 書記 小田穂恵

会計 増田公代 会計監査 大内妙子

幹事 野村久子、野坂登喜子、小田佐代子、藤原サナエ

中司久美子、宍戸るり子、平山純栄

二〇一一年度活動予定

今まで通り、ボランティア活動を中心に進めていきます。

奇数月の第二水曜日午前十時から午後三時まで、必ず、楽々園市民センター(公民館)にありますので、都合のつく方は気軽にのぞいてみてください。お待ちしています。

また本年はクリスマス会も予定しています。(十二月初め)参加を希望される方は十一月二十日頃までに、内山までご連絡ください。(電 〇八二九・三二・三七二二)

和歌

宮河 利恵

ある時、わざわざ転じて福となす出来事があり、そのおかげで、明日に希望を持つたり、小さなことでも何か楽しいことがあると、つらいこともものりこえられると考えられる様になりました。

希望や夢といったら大げさですが、花が咲いた、食べものがおいしい、といった普段の何げないことがよろこびにつながるのです。身のまわりの自然でみつけたおどろき

(Sense of Wonder) を書きこめました。

「今の輝き」

剪定し新芽の出るを待つ間

期待と不安入りまじる日々

雨粒が滴り止まる緑の景

朝の日差してプリズムになる

水差しのローズマリーに根が出て

そつと植たる古木のそば

はころびし小さき新芽を見つけた日

この喜びを誰にか伝えん

「若い人と共に学ぶ」 杉 尚子

(短大家政科二五回)

私は、短期大学部家政科を卒業後、洋裁をもう一度学び直し、現在は広島フアッション専門学校で、洋裁の講師をしています。生徒は年齢、学歴もさまざま、男子生徒も多く、皆、フアッションのプロを目指し学んでいます。私は一年生の洋裁実習の担当で、針を持つのもミシンを触るのも中学校以来という生徒に、まち針の打ち方から、縫い方、製図、服の構造、仕上げを指導しています。一枚の平面の布が、糸で合わせると立体になり、自分の服が出来上がる事に感動してくれます。褒めるともつと服作りが楽しくなり、興味を持つてくれます。私が生徒であった時も、講義より実習が楽しく、作品が完成した時は感動しました。その時の思いを生徒にも感じてもらいたいと、学生時代の先生から学んだ事を参考に、指導しています。一年間の指導で大変なのは、生徒が一番「やりがい」を感じる、卒業制作発表会の作品作りです。一年生も決められたテーマから、デザイン画を描き、実際に着ることの出来る服に仕上げ、各自モデルとなり、コンテスト形式でフアッションショーをして審査されます。自分の考

えを絵に描けない、何も浮かばないと悩む生徒には、いろいろ提案をし、導いていかななくてはなりません。最後まで悩んでいるような生徒がすばらしい作品を仕上げることも良く有りません。このフアッションショーは、上級生が主体となり、準備、構成、ポーズ、ナレーションまで計画し発表しますが、一年生も先輩の助手をしながら、イベント制作の勉強をします。本番でお客様を迎える様子は礼儀正しく、入学したての時の生徒ではなくなっており、一年間でこんなにも成長するのだと毎年驚かされます。任せることで、責任感を持ち、すばらしい能力を発揮するのが、若者です。このように成長していく生徒を見ていると、私も元気が湧いてきます。仕事を通じ多くの若者に接し、一年が終わる頃には、若者のやる気と行動力、優しい気持ちに感動します。指導しながら私自身も沢山のことを楽しく学ばせてもらっています。

この度の震災被災地でも、多くの若者が中心となり、被災された方々を支援し、元気付けようと、活躍しています。この震災を通じて日本全国の若者は何をしたらよいのか考えています。今の若者は軟弱、自己中心、言葉使いが良くない、と批判されることも有りますが、それぞれすばらしい能力を持っています。その力を十分発揮できる社会になって貰いたいと思います。

俳句

野村 久子

寄り添うて一つ水輪みずわに揺るる鴨鴨

多忙とは人の世のこと浮寝鴨うきねがも

祝はぎごとのありしか二重虹ふたえにじの海

出揃いざよいひて月と遊べる貝割菜かいわれな

十六夜いざよいや濡れいろしるき庭の石

峰々ひとこえへ一声たか放ち鷹渡る

神々の恋ものがたり薄うすもみぢ

シスターの影を慕くろあけうて黒揚羽

威銃おどししゅうもて古里ふるさとに迎へられ

寒灸かんやいと座禅のさまに目をつむり

注釈

・貝割れ菜 野菜の新芽(二葉)のこと

・しるき はつきりしていること

(名月の夜、庭の石がぬれているようで美しい)

・威銃 雀を追ひ払うための音を出す道具

大先輩にインタビュー(四)

…田中信子さんの巻…

今年(2011年)は田中信子さん(高女四八、旧姓斎藤現在、八七才)を老人ホーム「喜生園」にお訪ねし、お話を伺いました。

生い立ち 大正二年(一九一三)十月、広島市に生まれる。父上は海軍中佐であった。男

四人、女四人の末っ子として、何不自由のないお嬢様として育つ。一回り(二二才)上の姉と一つ年上の姉も五年間、広島女学院に通った。(もう一人の姉は中山女学校)

広島女学院時代 昭和二二年入学。作法は厳

しかったが楽しい学生生活を送った。制服は水色のジャンパースカート。一年生の生徒は百三十人で、当時はお金持ちのお嬢さんが多かった。他の学校と比べて英語と音楽に力が入れてあり、田中さんは英語が特に好きだった。英語は能力別にABCに分かれており、田中さんは勿論Aクラスだった。芝間タツ先生やター先生には大変お世話になった。マクミラン先生もおられた。修学旅行は四泊五日の九州一周だった。牛田山には畑があり、よく勤労奉仕に出かけた。またある遠足中の出来事だったが、牛田の橋のたもとにいた工兵隊の持っていた銃剣の先が

田中さんの額にあたり、七針も縫う怪我をしたことがあった。当時院長であった日野原善助先生が見舞いに来てくださり、お父さんと意気投合して以後すっかり仲良くなり、一緒に釣りなどに出かけたそうである。

卒業後昭和十七年、紙屋町にあった芸備銀行(今の広銀)に十ヶ月間勤めた後、神戸カレッジで家政科を一年余り習った。戦局が厳しくなり、大阪で姉婿の経営する飛行機の部品作りの仕事をしていた時、大空襲に合い、やがて終戦を迎える。広島へ帰ったが、原爆で緑井の家は半壊していた。やがて父や兄が帰還してきて徐々に平穏な生活に戻った。二八年に結婚、二人の息子を育て、今では三人の孫がいる。四十五年連れ添ったご主人は脳腫瘍になり、一七年間看病したが十年前、信子さんの誕生日に帰らぬ人となった。続いて一年後に長男が他界し、八年間は一人住まいを続けていたが、次男が心配するので老人ホーム入りとなった。今ホームで静かにしていると女学院時代に礼拝で歌った讚美歌の歌声が聞こえてくるといつて「主われを愛す」の歌の一節をその場で歌ってください。四月から別のホームへ移られるとのこと、これからお元気で平穏な日々を送られますよう、心よりお祈りいたします。(内山記)

会員の声・・・通信欄より

○地区だより楽しみに拝見。書記の小田恵恵さま、高六だと同級生・・・ですね。

(大竹市 渡辺玲子様)

○いろいろお世話戴き有りがとうございませう。話題及び文芸など満載の地区だより、愉しく読ませていただきました。

(宮島口東 水野 瞳様)

○四才(娘)二才(息子)の子育て中です。先日四才の娘と数年ぶりに女学院の周辺を歩きました。とても懐かしく、楽しいひと時でした。娘にもいずれ女学院に通ってもらえたら嬉しいです。

(廿日市市陽光台 山口梨香様)

○停年を機に千葉から主人の実家廿日市に帰省しました。この地を終の住処とし、愛惜、大事に生きていくつもりです。よろしくお願い致します。

(廿日市 島谷節子様)

○地区だより何時も有難うございます。四八回卒業です。友人(同級生)も少なくなりクラス会も出来ません。野村さん俳句お上手ですね。お会いすればよく憶えております。皆さんボランティアご苦労様です。感謝して居りますよ。

(地御前 石本幸江様)

○あつというまの一年でした。腰痛とヒザ痛に悩まされ乍らの合唱活動が唯一の生き甲斐となりました。ふり返ると子ども幼稚園のママさんコーラス、いいえそれ以前に、六年間の女学院生活で、朝夕讚美歌をハモったことが原点となっています。

(阿品 桑田澄子様)

○ホームカミングデーに参加致しました。至福の一時であり、又同期の長尾ひろみ学長にエールを送りたいと思います。

(佐伯区八幡 山崎みどり様)

○地区だよりいつも楽しく読ませて頂いております。「私の老後の生活」小田様の文章、すてきな老後を送りなのだなーと思えました。私も早く主人と死別した

もので小田様の手記を読みながら勇気づけられ、今から自分の人生を楽しみながら活したいといけなのだと励まされました。有難うございました。

(佐伯区楽々園 吉岡紘子様)

編集後記

本号に杉尚子さんが、はじめて投稿してくださいましたことは嬉しいことです。野村さんの俳句、宮河さんの和歌もおなじみになります。楽しみにしておられる方も多い事と思います。振込用紙の通信欄にもいろいろメッセージをいただき、感謝しております。年に一度の意見交換の機会でもありませんので、皆様、忌憚のない声をお聞かせください。では来年また。 内山

2010 年度会計報告	会計	増田公代
○ 収入の部		
* 前年度繰越金	366,073 円	
* 会費	341,000 円	
* 貯金利息	127 円	
収入合計	707,200 円	
○ 支出の部		
* 地区だより発送費	190,330 円	
* 上記以外の事務費	36,148 円	
* 寄付	120,000 円	
* 集会費	9,545 円	
支出合計	356,023 円	
次年度繰越金	351,177 円	

尚、50 万円の定期預金があります。会計監査 大内妙子(4 月 12 日実施)尚 2011 年度の同窓会費 1,000 円を同封の振込用紙にてお納めくださるようお願いいたします。(手数料節約のため、なるべく ATM 機にて、二人分の場合、用紙は一枚にてお願いします。)